

## Ⅶ. 西陣地域の宗教

この小論において、1. 第5次西陣調査（柏野学区）と第2次西陣調査（西陣学区）の結果を比較し、さらに第5次西陣調査の中から、2. 西

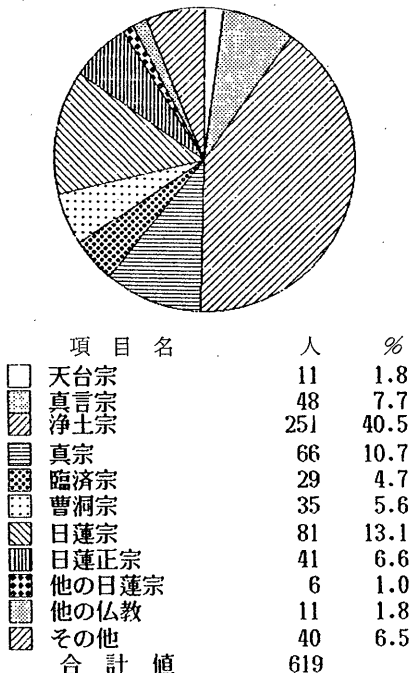
陣関係就業者と非西陣関係就業者を比較しながら、京都における西陣地区の宗教に関する若干の素描を試みた。

### 1. 柏野学区と西陣学区の比較

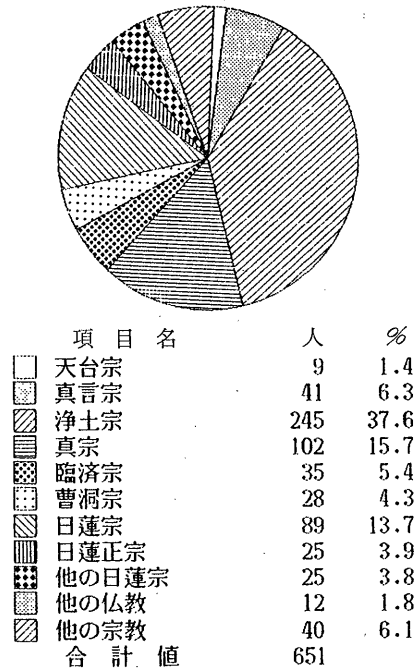
#### 〈所属宗派〉

浄土宗をはじめ、他の宗派とも、両学区の割合（図Ⅶ-1、図Ⅶ-2）を比較した場合、ほとんど差のみられない宗教が多い。その中でも、大きな差となって表われているのが、真宗の10.7%（柏野）対15.7%（西陣）であって、西陣学区の割合が柏野学区より高い。日蓮系も14.1%対17.5%であり、西陣学区の割合が柏野学区よりもやや高い。西陣学区はもともと日蓮系寺院の多いところで、合計23ヶ寺の内、本門法華宗9ヶ寺、法華宗真門流9ヶ寺、合計18ヶ寺を数えることができる（表Ⅶ-1、表Ⅶ-2）。かつての大舎人座31家はすべて日蓮宗に属し、御経講

図Ⅶ-1 個人の所属宗教（柏野）



図Ⅶ-2 個人の所属宗教（西陣）



（おへいこう）を形成し、内部の結束を誇っていた。『西陣天狗筆記』を著した井関政因の菩提寺も山内の円常院であり、墓は現在も妙蓮寺内の墓地にある。ところで、同じ日蓮宗でも日蓮正宗は、6.6%対3.8%となって、柏野学区の割合が高くなる。聖教新聞の購読者の割合も、6.8%対3.1%となっていて、日蓮正宗の割合と比例しており、柏野学区の割合が高い。「宗教なし」と答えた割合も柏野学区の割合が西陣学区のそれより高い。柏野学区の15.1%に対して、西陣学区は10.8%である。

伝統的な日蓮宗や真宗の割合は、柏野学区より西陣学区が高く、逆に戦後急速に信徒の数が

表Ⅶ-1 西陣学区の寺院

寺院名	宗 派	住 所
妙蓮寺	本門法華宗	上京区寺ノ内通り大宮東入る妙蓮寺前町
常住院	〃	〃
玉龍院	〃	〃
本妙院	〃	〃
本光院	〃	〃
慈詮院	〃	〃
圓常院	〃	〃
恵光院	〃	〃
堅樹院	〃	〃
雨宝院	高野山真言宗	上京区智恵光院通り上立売上る聖天町
徳円寺	真宗大谷派	上京区上立売通り堀川西入る幸在町
宝鏡寺	臨済系単立	上京区寺ノ内通り堀川東入る
慈受院	〃	〃
虚心庵	臨済宗妙心寺派	上京区寺ノ内通り小山西入る百々町
本隆寺	法華宗真門流	上京区智恵光院通り五辻上る紋屋町
慶成院	〃	〃
宣妙院	〃	〃
本法院	〃	〃
玉峰院	〃	〃
正寿院	〃	〃
本城院	〃	〃
玉樹院	〃	〃
是好院	〃	〃

表Ⅶ-2 柏野学区(郷之上町を除く)の寺院

寺院名	宗 派	住 所
福正院	浄土宗西山深草派	北区紫野中柏野町4-1

増大した日蓮正宗の割合は、西陣学区より柏野学区の方が高い。しかも「宗教なし」の割合は西陣学区が低く、学区の伝統的な側面を物語っている。

宗派を、割合の高い方から挙げてみると、両学区とも、浄土宗、日蓮宗、真宗の順となり、中京区の浄土宗、真宗、日蓮宗の順序と、よく類似した傾向を示している。禅宗については、西陣学区は、曹洞宗より臨済宗の割合が高く、逆に柏野学区は臨済宗より曹洞宗の割合が高く、両学区ともその差は1%である。柏野学区の出身者に丹後、若狭などの出身者が多少含まれて

いるからであろうか。仁和学区には、戦後間もない頃まで、住民が丹後の出身者の多いことを示す丹後露地(ロージ)と呼ばれる地域があり、千本通りに面するＪＲ二条駅近くには、つい先頃まで、丹波や丹後の地名を冠する旅館がみられ、毎日早朝には、日本海で漁れた魚貝類を駅前付近で販売し、午後になると汽車で地元へ戻って行く幾人かの女性達の姿がみられた。さらに丹後ちりめん組合の京都出張所は、聚楽廻西町に置かれ、数名の職員が常駐している。このように、西陣と丹後、丹波との結びつきは古くから強く、国鉄開通後は、二条駅を通じて両地区の往来はより頻繁となった。

自分の属する宗派と他の宗派の間に、ちがいをを感じる者、感じない者の割合は、二つの学区間においてまったく差を認めることができない。すなわち、ちがいをを感じる者が4割、感じない者が5割といずれかに片よることなく二分されている。半数近くの者がちがいを感じ、半数の者がちがいを感じていない。

#### 〈神仏習合、現世利益、祖先祭祀〉

日本の宗教が持つ特色として、現世利益、祖先祭祀、神仏習合がよく挙げられるが、西陣学区、柏野学区の調査から、この点をみてみたい。これに関する仏壇や神棚など「宗教施設」の所有に関する問いへの回答は、「仏壇と神棚」、「仏壇のみ」において、両学区間でかなりの差がみられる。仏壇と神棚の両方があるという割合は、西陣学区63.5%に対して、柏野学区は49.2%であり、仏壇のみ所有は、柏野学区25.6%に対して、西陣学区10.3%である。西陣学区は、柏野学区より神仏混交の形式がなお強いことを示している。したがって仏壇の保持率は、西陣学区73.8%に対して、柏野学区は74.8%であり、両者間にほとんど差がない。また神棚の保持率は、西陣学区71.8%に対し、柏野学区57.7%となって、両者間に大きな差がみられる。結局、神棚の保持率、仏壇と神棚を合わせ持つ率が、西陣学区と柏野学区間で差のあることを示している。その他の宗教施設について両者の間に差のあるものは一つもないことから、宗教施設単体の保持率をみた場合、神棚については、二つの学区で数字に開きがある。

NHK 放送世論調査所の調査によると、「お宅には、神棚がありますか」という問いに対する回答は、あるという人の割合が60.0%であり、(NHK放送世論調査所編『日本人の宗教意識』日本放送出版協会、昭和59年)、柏野学区はこの数字に近く、西陣学区71.8%は全国平均を大幅に上回っていることとなる。同調査による「仏壇はありますか」という問いに対する回答の内、あるという人の割合は60.6%であるが(NHK放送世論調査所『同書』)、西陣学区、柏野学区とも、全国の割合を大きく上回っている。

神仏への願い事の割合をみると、神仏両方に願い事をする割合がもっとも高く、40%を越え、西陣学区がわずかながら柏野学区より高い。神仏に願いごとをしない割合も20%を越え、学区間では、西陣学区がほんのわずかに勝っている。願い事における神仏習合がみられる反面、神仏と願い事を切り離している人が、23.0%前後に達している。現世利益が神仏両方とかかわる数字が高かったのに対して、先祖との関係をみると、仏を表わす数字がもっとも高く、柏野学区59.3%、西陣学区54.6%に達し、神仏ともに先祖と関係ありとする人は、20.0%前後である。また、両方とも先祖と関係ないとする回答も、柏野学区より西陣学区が若干高い。西陣学区は祖先崇拜について、肯定も否定も柏野学区よりその割合が高い。

#### 〈彼岸会、孟蘭盆会、地藏盆〉

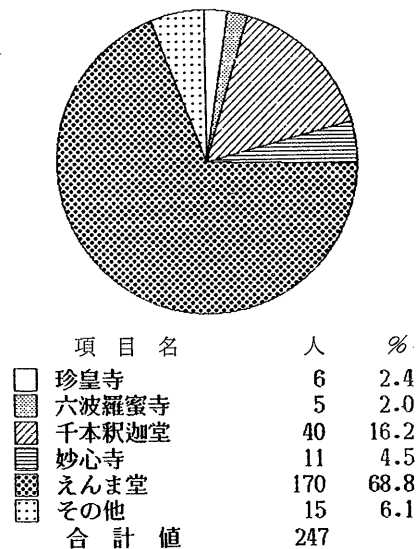
彼岸会の法要への参加度をみると、春秋ともに参詣する人の割合は、西陣学区59.7%に対して、柏野学区55.7%であり、柏野学区の割合が低い。春か秋のどちらかに参詣する割合は、柏野学区の方が高いが、その差はかなり小さい。また全くしない割合も、柏野学区25.0%、西陣学区21.8%となり、柏野学区の方が大きい。いずれにせよ、彼岸会の参加度は、二つの学区間に多少の差がみられるにすぎない。

盆行事の一つお精霊迎えと墓参りを行なう割合についての調査結果は、両学区間で明瞭な差が表われている。六道参りと墓参りをセットで行なう割合は、柏野学区が26.8%、西陣学区が19.8%で7%の開きがある。墓参りだけを行なう

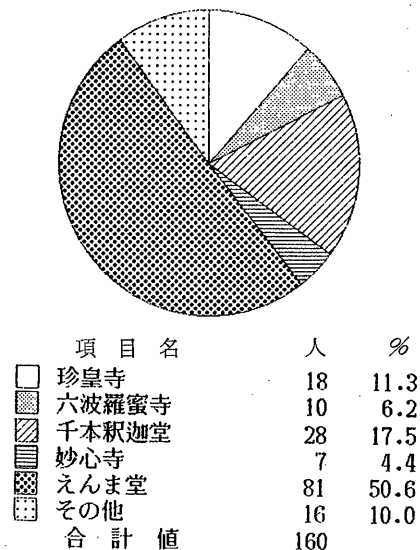
割合は、西陣学区の方が高く、70.0%、柏野学区はそれより14.7%低く55.3%である。六道参りと墓参りは、柏野学区が高い割合であるのに、墓参りは西陣学区が高くなっている。

ところが、六道参りの参詣先をみると、柏野学区は、千本えんま堂の割合が68.8%に達し、西陣学区(図VII-3、図VII-4)の50.6%をかなり凌いでいる。東山の珍皇寺や六波羅蜜寺の割合は、西陣学区が11.3%(珍皇寺)、6.2%(六波羅蜜寺)であるのに、柏野学区は2.4%、2.0%である。柏野学区の人のお精霊迎えが、学区近

図VII-3 六道参りの対象(柏野)



図VII-4 六道参りの対象(西陣)

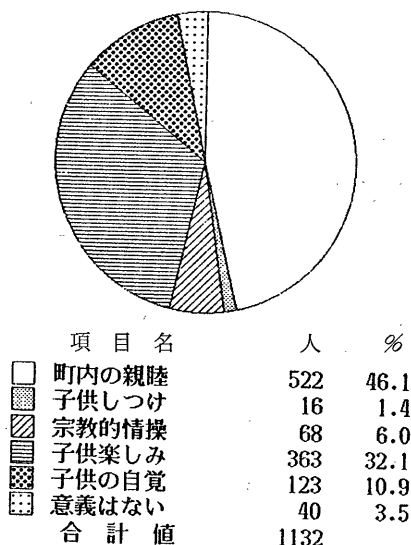


くの千本えんま堂に集中しているのに対して、西陣学区の人は、市内各地に分散しており、これが柏野学区における六道参りと墓参の組合せの比率を高めている理由の一つとなっている。

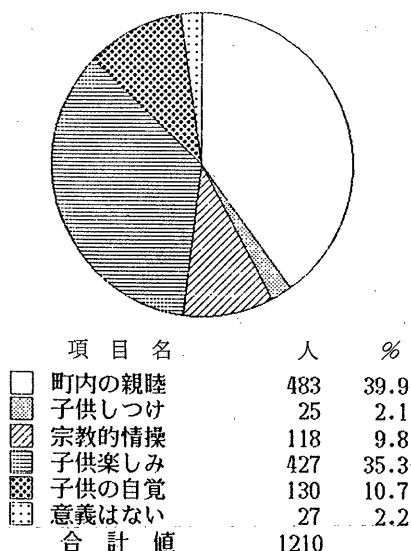
盆における墓参の頻度の調査結果によると、毎年する割合が、西陣学区91.3%に比して、柏野学区88.4%、何年かに一度の割合が柏野学区13.8%に比して西陣学区7.2%となり、西陣学区の人が多少墓参程度の高いことを示している。

地藏盆の行事に参加した割合は、両学区とも

図VII-5 地藏盆の意義（柏野）



図VII-6 地藏盆の意義（西陣）



90.0%に近い。この行事が古くから西陣地域にも根づいていたことが裏づけられる。地藏盆の意義(図VII-5、図VII-6)として、両学区とも町内の親睦をはかる、子供たちを楽しみをあたえるが、1・2位を占めているが、柏野学区は、町内の親睦をはかるの割合が西陣学区より高く(46.1%対39.9%)、西陣学区は、子供たちを楽しみをあたえるの割合が柏野学区より高い(35.3%対32.1%)。柏野学区は傾向として多少大人中心の地藏盆であるとするれば、西陣学区はある程度子供中心の地藏盆と考えることができるかもしれない。子供の宗教的情操を養うという意義も、西陣学区が9.8%に対して柏野学区が6.0%となって両者に差がある。

地藏盆は特に京都で盛んな行事の一つであり、町内によっては数日後に行われる大日如来の行事とともに、毎年夏の終りに行なわれた。したがって以前は、22日から24日にかけて催されるところが多かったが、伏見の調査(伏見のまちづくりをかんがえる研究会、子ども生活空間研究グループ著『子育ての町・伏見』都市文化社、1987年、173ページ)によると、現在は、土曜日の晩や日曜日と重ねるところが多くなっている。西陣でも同様で、たとえば、今年(1988年)も、仁和学区三番町南部は、8月20日(土)、21日(日)両日に地藏盆が行われ、他にもこのケースが多い。

地藏盆中に行われるプログラムの内容を通じて、伏見、下鴨、西陣の3地域を比較した実態調査(小川信子「子どもの生活と地域」日本生活学会編『生活学』ドメス出版、昭和50(1975)年、273~274ページ)がある。これによれば、昭和40年代の終り頃ではあるが、「伏見は、他と比べパン食い競争やボール遊びはなく、下鴨地区に多くみられた。伏見はじゅうずを必ず保有し読経なども盛んである。下鴨は古い町並と新興住宅地の両方が含まれているため、バラエティーに富んだ内容を見ることができた。内容は旧町並が盛んである。下鴨地域は人形劇があるが、地域の青年団が毎年やっている。西陣はレクリエーションなど新しい企画も多かった」(傍点は筆者)ことや、同じ西陣地域内でも、「特別新しい企画や派手な行事があるわけではないが、年中行事として定着し、生活のなかにすっか

り溶け込んだ地蔵盆という印象(西陣, 作庵町)」を得たことなどから、3地域の特徴として、

伏見 保存のパターン

下鴨 伝統とは一応きれた現代に生きたパターン

西陣 伝統を生かしつつ現代にも生きたパターン

のようにまとめている。

西陣地域の地蔵盆が、伏見の保存パターンと下鴨の現代パターンの間にあって、伝統的かつ現代のパターンを示しているといえる。伝統的な地蔵盆が、子供中心の行事であるとすれば、西陣学区と柏野学区を比較した場合、子供たちに楽しみを与える、子供の宗教的情操を養う、子供のしつけに役立つ、子供に町内の一員としての自覚を育てる、という割合の高い西陣学区は伝統的であり、町内の親睦をはかる割合の高い柏野学区は、現代的であるといえることができる。

#### 〈地蔵尊の分類〉

寺院の地蔵堂に安置される地蔵尊や市内各町内の祀堂に置かれる地蔵様など、京都は、地蔵盆がまだ盛んであるだけに、一体どれ位いの数があるのか皆目、見当がつかない。しかも、その多くは、地蔵菩薩像としての儀軌を守ったものではなく、中には、単なる石ころにすぎないような地蔵や昔なら漬け物の重しにでも使用されたような地蔵様までおられる。ところが、京都の人々は、このような地蔵菩薩像に対して、それぞれ町内や地域によって異なる意味付けを行なっている。すなわち、人々は地蔵盆になると、町内毎に南無地蔵菩薩とか南無延命地蔵菩薩の提燈を飾ることによって、各町内の地蔵がいかなる種類であるかを明らかにし、しかも毎年毎年、それを繰り返し伝統を維持してきた。各町内に安置される地蔵尊は、別表のように、南無地蔵菩薩と南無延命地蔵菩薩の二つが断然多く、他の変名地蔵尊はほとんどない。

西陣地域の中で織物の街として早くから開けていた西陣学区と、それより後に開かれた仁和学区における地蔵菩薩の種類を表に掲げた。筆者が、二つの学区を中心に地蔵盆の行われている町内を無作為に調査したものである(表Ⅶ-3, 表Ⅶ-4)。これによると、両学区とも南無

地蔵菩薩と変名地蔵の中でも圧倒的に多い延命地蔵菩薩の二つが占めている。ところがその割合は、西陣学区では、南無地蔵菩薩7に対して

表Ⅶ-3 西陣学区に於ける地蔵菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
幸在町(徳円寺内)	地蔵菩薩	1988. 8. 21(日)
東 西 町	地蔵菩薩 延命地蔵菩薩 (中央に大日如来)	21(日)
大北小路東町	地蔵菩薩	21(日)
西石屋町	延命地蔵菩薩	21(日)
東石屋町	地蔵菩薩	21(日)
大猪熊町	地蔵菩薩	21(日)
硯 屋 町	延命地蔵菩薩	21(日)
曼陀羅町	延命地蔵菩薩	21(日)
紋 屋 町	地蔵菩薩	21(日)
芝薬師町	地蔵菩薩 延命地蔵菩薩	22(月)
妙蓮寺前町	延命地蔵菩薩 (地も若干あり)	23(火)

(内訳 地蔵菩薩7, 延命地蔵菩薩6)

表Ⅶ-4 仁和学区に於ける地蔵菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
西町(西正寺内)	延命地蔵菩薩	1988. 8. 21(日)
下 之 町	延命地蔵菩薩	21(日)
西東町西部	延命地蔵菩薩	21(日)
西東町本部	地蔵菩薩 (若干延命地蔵菩薩あり)	21(日)
〃 東部(西蓮寺内)	延命地蔵菩薩	21(日)
長 門 町(祐正寺内)	延命地蔵菩薩	21(日)
稲 葉 町	地蔵菩薩 延命地蔵菩薩	21(日)
七番町中央部	白率地蔵菩薩	21(日)
利生町東部	地蔵菩薩	21(日)
七番町北部	延命地蔵菩薩 (地蔵菩薩もあり)	21(日)
二番町東部		
利生町南部	延命地蔵菩薩 (地蔵菩薩もあり)	21(日)
鳳瑞町南部	延命地蔵菩薩	21(日)
三番町北部	延命地蔵菩薩	21(日)
天満屋町	地蔵菩薩 延命地蔵菩薩	23(火)
大 東 町	地蔵菩薩 延命地蔵菩薩	23(火)
大上之町	地蔵菩薩 延命地蔵菩薩	23(火)

(内訳 地蔵菩薩8, 延命地蔵菩薩14, その他1)

延命地藏菩薩6であるが、西陣周辺部に位置する仁和学区では、延命地藏尊14に対して、南無地藏尊は8である。このように西陣学区は、南無地藏菩薩が多く、仁和学区は、延命地藏菩薩が多い。西陣学区に近い柏野・翔鸞・乾隆・嘉楽等の学区を合計すると地藏菩薩が延命地藏よ

表Ⅶ-5-イ 柏野学区に於ける地藏菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
下柏野南町	地藏菩薩	1988. 8. 21(日)

(内訳 地藏菩薩1)

※ p. 80 付記中の(表Ⅶ-5-ロ)を参照されたい。

表Ⅶ-6 翔鸞学区に於ける地藏菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
西上善寺町	地藏菩薩	1988. 8. 21(日)
一観音町	地藏菩薩	21(日)
毘沙門町	地藏菩薩	21(日)
	延命地藏菩薩	
笹屋四丁目町	地藏菩薩	23(火)
	延命地藏菩薩	
笹屋五丁目町	地藏菩薩	23(火)
	(若干, 延命地藏菩薩あり)	

(内訳 地藏菩薩5, 延命地藏菩薩3)

表Ⅶ-7 乾隆学区に於ける地藏菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
新猪熊町	地藏菩薩	1988. 8. 23(火)
新猪熊東町	地藏菩薩(祠堂あり)	23(火)

(内訳 地藏菩薩2)

表Ⅶ-8 嘉楽学区に於ける地藏菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
北伊勢殿構町	地藏菩薩	1988. 8. 21(日)

(内訳 地藏菩薩1)

表Ⅶ-9 正親学区に於ける地藏の種類

町 名	種 類	調 査 日
新在家町(一条通り)	延命地藏菩薩	1988. 8. 21(日)
亀屋町 (千本中立売付近)	地藏菩薩	23(火)
	延命地藏菩薩	
鶴屋町 (千本中立売付近)	地藏菩薩	23(火)
	延命地藏菩薩	

(内訳 地藏菩薩2, 延命地藏菩薩3)

表Ⅶ-10 聚楽学区に於ける地藏菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
鏡石町	延命地藏菩薩	1988. 8. 21(日)

(内訳 延命地藏菩薩1)

りも多い(表Ⅶ-5-イ, 表Ⅶ-5-ロ, 表Ⅶ-6, 表Ⅶ-7, 表Ⅶ-8)。正親・聚楽のように西陣地区南部の学区は、仁和学区と類似して、延命地藏が少し多い(表Ⅶ-9, 表Ⅶ-10)。

また表Ⅶ-11には、中京区と下京区の非西陣地区に於ける地藏菩薩の分類を挙げた。ここでいう中京区域は御池以南の西は堀川通り、東は寺町通り、南は四条通り、御池以北では、北は丸太町通り、東は寺町通り、西は烏丸通りの区域である。ここでいう下京区域は、東は寺町通り、西は烏丸通り、南は高辻通りからなる四辺にあたる。ここでみられるように、中京区と下京区地藏分類によれば、大日如来との合祠が一部あるものの、ほぼすべてが延命地藏菩薩によって占められている。

表Ⅶ-11 非西陣地区学区に於ける地藏菩薩の種類

町 名	種 類	調 査 日
最上町(教業学区)	延命地藏菩薩	1988. 8. 22(月)
梅屋町(生祥学区)	延命地藏菩薩	22(月)
伊勢屋町(生祥学区)	延命地藏菩薩	22(月)
弁慶石町(生祥学区)	延命地藏菩薩	22(月)
海老屋町(生祥学区)	金剛地藏大菩薩	22(月)
舟屋町(生祥学区 あるいは富有学区)	延命地藏菩薩	22(月)
達磨町(富有学区)	延命地藏菩薩	22(月)
松本町(富有学区)	延命地藏菩薩	22(月)
笹屋町(富有学区)	地藏菩薩	22(月)
	延命地藏菩薩	
鍛冶屋町(富有学区)	延命地藏菩薩	22(月)
山中町(富有学区)	延命地藏菩薩 (大日如来あり)	22(月)
楠町(富有学区)	延命地藏菩薩	22(月)
小将井御旅町(=御 旅九軒町, 富有学区)	延命地藏菩薩	22(月)
榎木町(銅駝学区)	延命地藏菩薩	22(日)
妙満寺前町(以上, 中京区, 柳池学区)	延命地藏菩薩	22(月)
丸屋町(以下, 下 京区, 開智学区)	延命地藏菩薩 (大日如来あり)	22(月)
筋屋町(開智学区)	延命地藏菩薩	22(月)
綾材木町(豊園学区)	延命地藏菩薩 (大日如来あり)	22(月)

(内訳 地藏菩薩2, 延命地藏菩薩16, その他1)

このように、町内の所有する地蔵の類型に関するかぎり、中京区、下京区は、西陣地域の西陣学区とは大きく様相を異にしており、西陣地域の仁和学区とも多少異なっている。つまり西陣学区が南無地蔵尊の多い地域とすれば、中京区、下京区は延命地蔵尊の地域であり、仁和学区は延命地蔵尊が多いけれども南無地蔵尊もみられる地域である。

地蔵盆が今でもかなり行われている小浜市の街では、以前に筆者が当地を訪れた際の記憶によれば南無地蔵菩薩によって占められていたように思う。また紀野一義による小浜市の地蔵盆に関する叙述には、「小浜市北部・海岸沿いの『雲浜』『堀屋敷』『板屋町』『小松原川西・東』『下竹原』『新小松原』では、どの家も、黄、緑、赤、紺、白の紙を幅20cm、長さ1mほどの細長い形につなぎ合わせたものに、筆で『南無地蔵菩薩』と書いた紙の幡を電話線からぶら下げたり、青竹の枝にぶら下げたりしている」（『地蔵菩薩』集英社、1987年、125～6ページ）とあるように、この地域では南無地蔵菩薩が一般にはよく祀られている。このように安置される地蔵菩薩の種類は、京都、福井だけでなく、他の場所や地域によっても異なる。

経典の『延命地蔵菩薩經』は、平和時代の末頃、『大乘大集地蔵十論經』及び『地蔵菩薩本願經』という漢訳仏典から偽作されたものといわれているから、古い総合的な機能を果すことのできる南無地蔵菩薩が、西陣の中心部である西陣学区で多く保持され、具体的な単一のしかも重要な機能を果し得る名称を持つ新しい形式の延命地蔵菩薩が、中京、下京など西陣以外の京都で保持され、京都の隣接地、若狭の一面で、西陣と同様、南無地蔵菩薩という古い形式が残っていることになる。

#### 〈地蔵盆の日程〉

近頃では、8月の日曜日を利用して、地蔵盆が行われる場合が多いことから、8月22日、23日の地蔵盆直前の日曜日である1988年8月21日に調査を行なったところ、西陣学区では、9町内を見出し、他の嘉楽や正親学区でもいくつか見出すことができた。しかし柏野学区では、ほとんどの町内が、もう1週前の土曜日と日曜日に当る

15日と16日に地蔵盆を行なっていて、21日の日曜日には、下柏野南町の中の一つを見届けることができたにすぎない。念のため、8月22日（月）、23日（火）の両日も地蔵盆開催の様子をみてもらったが、柏野学区ではまったくなく、西陣学区では薬師前町のみを見出すことができた。ところが中京区や下京区、特に中京区では表Ⅶ-11の如く、数多くの町内が今でも22日（したがって23日との両日）に地蔵盆を行なっており、仁和学区、正親学区、翔鸞学区でも20日、21日ほどではないにしても、いくつかの町内が地蔵盆を行なっている。準備のおくのため、8月27日（土）、28日（日）の大日会の頃に、やむおえず地蔵盆を行なう数少ない例もあった（朱二学区、聚楽廻西町西部、南無地蔵菩薩）。

今年（1988年）の地蔵盆開催日を①15日（土）、16日（日）、②20日（土）、21日（日）、③22日（月）、23日（火）の3つに分けると、柏野学区は①に集中し、西陣学区は①と②にほぼ二分され、中京区などでは、①②③に分散して行われたのではないだろうか。いずれにしても、8月22日、23日、24日に行われる地蔵盆は、昔に較べて少なくなってきたおり、特に西陣学区、柏野学区では全くといっていいほど見られず、22日、23日直前の土、日曜日でも、柏野学区では行われていない。西陣地域では休日といえば、伝統的に毎月1日と15日の2日間であった。この休日を利用して8月15日の地蔵盆の日程が設定されたのであろう。15日といえば、盂蘭盆会も終りに近く、15日の地蔵盆開催は、二つの盆が重なることとなる。16日に点火される五山の送り火によって二つの盆を同時に閉めくくろうとしたのであろうか。さらに近年は、8月も後半になれば、子供達が夏休みの宿題に追われるという事情もあって、地蔵盆が早目に行われるようになってきているらしい。

#### 〈地蔵盆と大日会〉

天道大日如来会（8月27日、28日）は、地蔵盆と並んで、京都を中心として古くから行われてきた宗教的伝統行事の一つであるが、地蔵盆に較べると、現在これを行なう町内の数は少ない。

地蔵盆だけでなく大日如来会をも行なう町内としては、中京区における明倫学区の宗林町、<sup>そうりんちょう</sup>

城 巽学区の姉西洞院町がある。宗林町は昭和63年20日(土)、21日(日)の両日に地蔵盆、28日(日)に大日会を行なう。28日朝8時半頃、依頼していた尼僧による開扉式、町内戦没者物故供養の後、9時半御池通り油小路に集合し、チャーターしたバスに乗り琵琶湖紅葉パラダイスへ出かけ、4時頃帰着、閉扉式をもって大日会は終る。姉西洞院町は昭和63年の場合、21日(日)に地蔵盆、翌週28日(日)に大日会を行なっている。28日の午後には、バスで北区のしょうざんボーリング場へレクリエーションに出かけている。西陣学区の西北小路町も地蔵盆と別に大日会を行なう町内である。地蔵盆には同町内の住民を中心として30数軒、大日会には、他の町内を含め60軒からお供えがある。柳池学区の二条町は26日、27日、28日の3日間開催、昭和63年、3日目の午後は、神戸港、六甲山の納涼コースをめぐり、9時半頃、バスが町内に到着する予定を組んだ。弁財天町は例年27日、28日前後の日曜日一日を大日会のためにあてている。

さらに柏野学区、上柏野町、上柏野栄町、上柏野東部などのように、地蔵盆(15日、16日)が中心であるが、8月27日、28日は、大日如来の祠堂をきれいに飾りつけ、灯りをつけ、供物をあげるところもある。西陣学区の妙蓮寺東隣りにある大日祠堂は以前は町内の人々によって大日会が営まれていたらしいが、近年、地蔵盆のみになっている。中京区の柳池学区、晴明町にも天道大日如来の祠堂がみられるが、8月28日に特別の法会が行われている様子はない。同区・竹間学区の松竹町(夷川両替町西北角)の大日如来のように、もとは町内で大日会が行われていたと思われるが、現在は、個人によって世話が続けられており、8月27日、28日には近隣の人々からお供えもあげられている。

また、西陣学区、東西町のように、天道大日如来を真中にして、左右に延命地蔵菩薩、南無地蔵菩薩、天道大日如来の提燈を並べ、地蔵盆と大日会を併せて行なう形式を採っている。これに類似した合祀形式は、中京区富有学区の山中町、下京区豊園学区の綾材木町、開智学区の丸屋町でもみられる。これらの町内では、地蔵盆中にもかかわらず、延命地蔵尊の提燈群の中

へ一つか二つ大日如来の提燈をつけ加えて懸けている。

### 〈造り物〉

周知のように、1868(慶応4)年3月13日、明治維新政府によって神仏分離令が発せられると、排仏毀釈の運動が全国にひろがった。

これによって、京都の地蔵も難を受けたと思われる。たとえば、その中に東山区東福寺山内退耕庵の玉章(たまざさ)地蔵、上京区紙屋川町のお別れ地蔵、下京区正行院(猿寺)の輪形(わがた)地蔵、北区上善寺の鞍馬口地蔵、山科区徳林庵の山科地蔵などがある(岡部伊都子『京の地蔵紳士録』淡交社、昭和59年3月30日)。上記紙屋川町(翔鸞学区)のお別れ地蔵の他にも、西陣地区、中心部の笹屋町の本影地蔵尊は、明治初年、一条戻橋から笹屋町へ行きたいとのお告げがあり、乞食坊主によって届けられたといわれる地蔵尊であり(井之口有一、堀井令以知共著『京都語位相の調査研究』東京堂出版、昭和47年1月20日、49ページ)、これも排仏毀釈によるものと考えられるから、地蔵盆は大きな難関をのりこえて現在にまで伝えられてきたこととなる。さらに同町では、地蔵盆に合わせて、この地蔵尊を供養するために、織物、絹糸、織物道具などで人形や背景などを作って飾る。これを「造り物」と呼ぶが、これは明治10年頃から行われ、戦時中を除き、つい最近まで続いていた行事である(井之口有一、堀井令以知共著『同書』49ページ)。明治10年頃といえば、仏教の側が、廃仏毀釈の痛手からようやく立ち直りをみせてくる時期であるが、笹屋町の「造り物」は明治10年頃にはじまっている。したがって、それは廃仏毀釈の運動と関連性をもつといえる。またこの「造り物」は、西ノ京の人々によって、ずいき、芋、茄子、唐辛子などの野菜から作られる瑞饋神輿の影響や、祇園祭の際、鈴町で行われる屏風展示からの影響も考えられよう。

### 〈今宮神社の祭礼〉

今宮神社の祭礼は、5月に行われるが、その期間中、御輿は、雲林院町のお旅所に置かれる。その間、お旅所は多くの人々で大にぎわいとなる。今宮神社は、織物の祭神も祀る西陣と関係の深い神社の一つである。そこで両学区の人々



とこの神社の関わりをみた。まずお旅所へ出かける頻度として、よく行く、ときどき行くともその割合は、西陣学区が柏野学区を上回る。他方、行かない割合は、柏野学区では全体の半数

にのぼる。西陣学区では、全体の4分の1程度である。古くからの今宮神社の氏子圏にある西陣学区とそうでない柏野の学区の差が現われている。

2. 柏野学区内の西陣関係者と西陣非関係者の比較

〈所属宗派〉

個人の宗教に関する回答(図Ⅶ-7)の中、西陣関係者と西陣非関係者間でもっとも開きの大きい宗派は、日蓮宗(日蓮正宗以外の日蓮系を含む)で西陣関係者13.7%対西陣非関係者8.58%である。日蓮正宗は、5.97%と5.63%とほとんど差はない。日蓮宗ほどではないが、この他、真宗が9.85%と7.51%に分れ、真言宗も7.16%と4.29%に分れ、いずれも西陣関係者の割合が高い。もともと西陣関係者と日蓮系宗派の結びつきは強く、前述の如く『西陣天狗筆記』の著者、井関成因など大舎人座31家からなる日蓮宗御経講は有名である。日蓮宗本山の多くが、西陣にあるばかりでなく、戦前から戦後にかけて、教線を急速に拡張した、日蓮宗の本門仏立宗(講)の本山も、上京区中立売通り下ノ森に建てられている。宗教なしの割合は、西陣関係者9.25%、西陣非関係者20.91%であるから、西陣関係者の方が、西陣非関係者より10%ばかり高い割合で、いずれかの宗教にかかわりをもっている。

自分の宗派と他宗派の違いを感じるか否かについての回答は、学区間の比較では、全く差がなかったのに対して、西陣関係者と西陣非関係者の比較では少し差がみられる。もっとも開きが

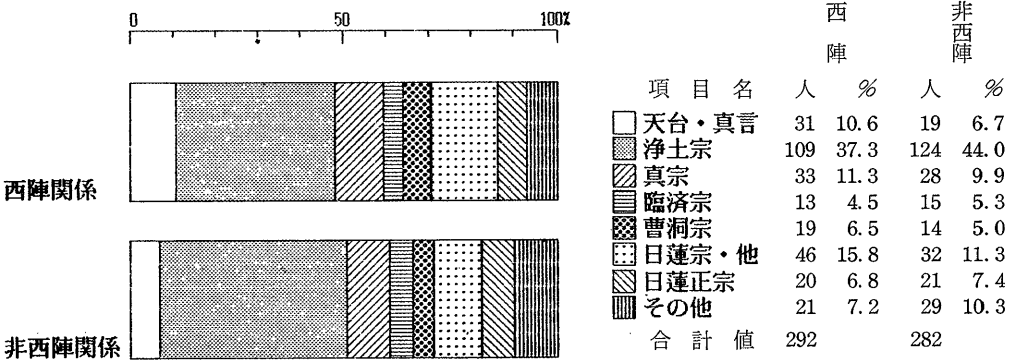
あるのは、No Answer で6.39(18.81対25.20)%である。これが感じる、感じないの両方に影響を与えていると思われるが、強いていえば、西陣関係者の方が西陣非関係者より宗派意識が強く、また宗派への所属の程度も高いといえることができる。

〈神仏習合、現世利益、祖先祭祀〉

宗教施設の内、仏壇と神棚の両方を所有する割合は、西陣関係者 53.43% に対して西陣非関係者 45.58% となって、西陣関係者が勝っている。ところが仏壇所有率(仏壇と神棚、仏壇のみ)は、75.52%対73.73%となって差はほとんどなくなる。そして神棚所有率(仏壇と神棚、神棚、神棚と位牌)は63.28%と53.09%になり、西陣関係者が西陣非関係者を上回る。「仏壇と神棚の両方」と「神棚」の所有率は、西陣関係者が高く、仏壇所有率が、両者はほぼ同じ割合ということになる。

困っているときに、神仏に願いごとをする割合は、西陣関係者と西陣非関係者ではどのように異なっているのだろうか。困っているときに、仏に願いごとをする割合(22.99%対22.25%)や神に願いごとをする割合(8.36%対9.12%)は、両者間にほとんど差はない。しかし、困っているときに、神や仏の両方に願いごとを

図Ⅶ-7 個人の所属宗教、西陣非西陣



する割合は、西陣関係者が43.88%，西陣非関係者が38.02%で6.00%近く前者の割合が高い。他方、神仏に願いごとをすることは無いという割合は、西陣関係者19.70%，西陣非関係者24.40%で、後者の割合が5.00%近く高い。西陣学区と柏野学区の地域比較よりも、西陣関係者と西陣非関係者の対比の方が多少なりとも差が表われているといえる。

仏と先祖を結びつける考え方は、西陣関係者も西陣非関係者とももっているが、両者の差も比較的はつきりしている。西陣関係者63.28%が、西陣非関係者56.03%より7.00%少々高い割合である。神と先祖を結びつける割合は、両者間でほぼ同じである。ところが、神と仏の両方を先祖と結びつける割合は、西陣関係者21.16%が西陣非関係者よりも3.00%少し高くなる。神仏とも先祖とは関係ないとする考え方は、西陣関係者の9.55%より西陣非関係者の17.16%が7.00%少々低い。西陣学区と柏野学区の地域差より、西陣関係者と西陣非関係者の差の方が多少明白であるように思われる。

#### 〈彼岸会、盂蘭盆会、地藏盆〉

彼岸会法要への参拝が西陣関係者と西陣非関係者の間でどのように異なっているのかをみると、春秋とも参拝する(60.90%対51.47%)も、春秋のどちらかにする(18.51%対15.28%)ともに、西陣関係者の割合が西陣非関係者の割合を上回っている。これも上述した西陣学区と柏野学区を比較したものより、かなり割合が高い。

盂蘭盆会の行事として、一般に行われる六道参りや墓参は、西陣関係者と西陣非関係者の間に明白な差が生じている。六道参りと墓参の両方を行なう者の割合は、28.66%と24.40%、六道参りだけの割合は、3.58%と2.41%、墓参だけの割合が59.48%と53.62%にそれぞれ分れ、いずれも西陣関係者が西陣非関係者の割合を上回っている。したがって六道参りや墓参をしない割合は、西陣非関係者18.50%が西陣関係者6.87%を上回る。

このように、六道参りや墓参については西陣関係者と西陣非関係者の割合の差がひじょうに明白である。

六道参りに行くと回答した247名にその行先を問うたが、前節に述べたように、柏野学区は西陣学区に比較して、珍皇寺へ行く割合が2.4%、六波羅蜜寺が2.0%と低く、西陣関係者と西陣非関係者の割合の差も同じように認めがたい。えんま堂へ参詣する割合は、西陣学区に比べて、柏野学区の割合が上回っていることを上述したが、柏野学区内の西陣関係者は71.30%、西陣非関係者は73.00%を示すように、千本のえんま堂へ参詣にでかける割合は、両者間に差がない。すなわち、六道参りに関していえば、柏野学区では、西陣関係者も西陣非関係者とはほぼ類似した行動をとっていることが分かる。

お盆の六道参りや墓参などいずれも、西陣関係者が西陣非関係者を上回っていたが、お盆の墓参頻度も、毎年する割合は、西陣関係者が西陣非関係者を上回っているのに対し、何年かに一度する割合では、西陣非関係者が西陣関係者を上回っている。したがって、墓参行動についても、柏野学区では、西陣関係者の人びとが、西陣非関係者よりも多少ともよく行なっているといえよう。

柏野学区民の地藏盆参加体験は、この墓参頻度とよく類似した傾向を示している。すなわち、地藏盆に参加した経験者は、西陣関係者が93.43%であるのに対して、西陣非関係者は86.33%であり、西陣関係者の割合が高く、参加したことのない割合は、西陣関係者が4.48%、西陣非関係者が12.86%となって、後者が高い。いずれにせよ両者間に差はあるものの西陣関係者と西陣非関係者とも参加経験者の割合は非常に高いといえる。

地藏盆の意義は、西陣関係者、西陣非関係者とも多い方から、町内の親睦をはかる、子供たちに楽しみをあたえる、子供に町内の一員としての自覚を育てる、子供の宗教的情操を養う、子供のしつけに役立つの順に並ぶが、上位にある、町内の親睦、子供の楽しみの二つが断然多く、宗教的效果や教育的影響より娯楽的色彩を強くうかがわせている。しかもこのような傾向は、西陣非関係者よりも西陣関係者の方が強く、たとえば、町内の親睦をはかるという割合は、西陣関係者74.63%に対し、西陣非関係者63.27%

であり、子供に楽しみを与えるという割合は、西陣関係者48.66%に対し、西陣非関係者46.65%であり、順位が下がるにしたがって、その差は小さくなり、子供のしつけに役立つという割合は、西陣関係者1.79%に対して西陣非関係者2.41%と高低が逆転している。しかしここでも、子供の宗教的情操を養うという宗教的項目の割合は、西陣関係者8.66%に対して、西陣非関係者8.31%であるように、前者の割合が高いといえは高い。

### 〈社寺参詣〉

柏野学区の住民にとって、今宮祭は、西陣学区住民ほど身近な祭りでないことは前述した通りであるが、このような柏野学区において、西陣関係者と西陣非関係者の間では、今宮祭りへのかかわり方に差が生じている。今宮祭りの期間中お旅所へよく行く割合は、柏野学区における西陣関係者全体の7.76%に対して、西陣非関係者全体の5.36%であり、ときどき行く割合も、西陣関係者47.16%に対し、西陣非関係者35.92%である。したがって、行かない割合は、西陣非関係者が56.57%と5割を越えるのに対し、西陣関係者は42.39%と4割を若干越す程度である。柏野学区住民は、西陣学区住民に比較してはるかに今宮神社との結びつきは弱いが、その柏野学区住民の中でも、西陣非関係者が西陣関係者よりも、今宮神社との関係はなお希薄となる。

世帯主を対象とした調査で、人々がお参りした神社の内、今宮神社、北野神社についてみると、西陣学区は、今宮神社が47.4%、北野神社が28.8%であるのに、柏野学区は、北野神社が50.0%、今宮神社が12.1%となり、それぞれの学区と神社との関係が全く逆になっている。その他、上賀茂神社は、西陣学区の8.8%に対し柏野学区4.1%、伏見稲荷は、西陣学区11.2%に対し柏野学区9.2%、吉田神社は12.6%に対し10.1%、平安神宮は5.9%に対し3.7%、八坂神社は6.2%に対し3.7%など、著名神社の割合は、西陣学区が柏野学区を上回っている。それだけに、柏野学区の北野神社へ参詣する割合は、際だって高いといえることができる。

神社・寺院へ参詣した理由を高い割合から順

に列举すると、西陣学区は、初詣79.7%、祈願35.9%、葬式・法事22.1%、節分21.5%、祭礼の日12.3%であり、柏野学区は、初詣70.8%、節分25.1%、祈願21.4%、葬式・法事16.5%、祭礼の日9.1%の順になる。初詣の第1位と祭礼の日の第5位は両学区共同じであるが、節分は柏野学区では第2位を占めるのに、西陣学区では第4位となり、低い。両学区間における参詣理由の割合の差も節分などいくつかを除いて、西陣学区が柏野学区より勝っている。京都で行われてきた行事の十三詣りもその例外ではない。ただ、厄払いとか鬼を退散させるとか、どちらかといえば積極的な宗教的意味を内包すると思われる宗教行事への参加する割合だけは、柏野学区が西陣学区を上回っている。

この十三詣りは、今では4月13日を中心として3月13日か5月13日にかけて行われ、数え年13歳の子供が知恵を授かろうと、法輪寺（西京区・嵐山）の虚空蔵菩薩に参詣する行事である。女の子が着物を着る機会の一つでもあって、この行事は西陣の織物と深い関係をもっていた。したがって、現在でも織物関係の人々の関心も大きく、調査が行なわれた。たとえば、昭和52年の京都府立中小企業総合指導所による調査では、32.7%が晴れ着の参詣であり、昭和57年の京都織商京都きもの振興会による推定でも、3人に1人が着物姿であると推定している（二つの調査とも、京都新聞社編『京都・滋賀子どもの祭り』昭和59年、京都新聞社、96ページ）。

### 付 記

表Ⅶ-5-ロの如く、柏野学区（上柏野、中柏野、下柏野）は、延命地藏菩薩ではなく、地藏菩薩から成り立つ地域であることがわかる。西陣学区と比較しても、柏野学区は、圧倒的に全体の中で地藏菩薩の占める比率が高く、延命地藏菩薩の占める割合の著しく高い中京区、下京区等の非西陣地区学区とは対称を成している。

また表Ⅶ-5-ロによれば、柏野学区における地藏盆（町内を中心とする地縁の盆）の日程は、盂蘭盆（個人を中心とする血縁の盆）の日程と重なっていることが特色の一つである。1988年の調査では、当学区において、8月24日の地藏縁日頃に開催された地藏盆は、下柏野南町を数

表Ⅶ-5-ロ 柏野学区に於ける地藏菩薩の種類

町 名	種 類	地藏盆開催日
下柏野西新町町	地 蔵 菩 薩	14. 15. 16
中 柏 野 若 広 町	地 蔵 菩 薩	14. 15. 16
上 柏 野 中 町	地 蔵 菩 薩	14. 15
中 柏 野 旭 町	地 蔵 菩 薩 (左右両脇に延命地藏と大日如来あり)	14. 15. 16
中 柏 野 寿 町	地 蔵 菩 薩	14. 15. 16
下 柏 野 西 町	地 蔵 菩 薩 (若干延命地藏あり)	14. 15. 16
上柏野郷ノ上東町	地 蔵 菩 薩 (延命地藏の吹流しあり)	14. 15. 16
中 柏 野 本 町	地 蔵 菩 薩	14. 15. 16
上 柏 野 栄 町	地 蔵 菩 薩	14. 15. 16
中 柏 野 南 町	地 蔵 菩 薩	14. 15. 16

(内訳, 地藏菩薩10, 延命地藏菩薩2) ※いずれも調査日は, 1989年8月15日(火)。p. 75 (表Ⅶ-5-イ) を参照されたい。

表Ⅶ-12 柏野学区下柏野西新町町平成元年(1989) 地藏盆プログラム

8月14日(月)	15日(火)	16日(水)
4:00 pm おやつ(スナック) あてもの1 ビデオ・まんが大全 集1	11:00 am おやつ(ポン菓子) 4:00 pm おやつ(みたらし団子) あてもの2 ビデオ・まんが大全集 2	10:00 am おやつ 福袋 11:00 am 福引大会 12:00 pm おさがり 5:00 pm 反省会 糸仙にて

表Ⅶ-13 伏見・京町一丁目昭和61年(1986) 地藏盆プログラム

8月22日	23日	24日
2:00 pm 子ども福引 3:00 pm おやつ 4:00 pm ソフトクリーム 7:00 pm 子どものど自慢	10:00 am ハンバーガー ジュース 3:00 pm 輪投げ 7:00 pm 子ども珠数まわし 7:30 pm 大人お念仏	9:00 am 福引 10:00 am 後かたづけ

えるにすぎず, 他方, 15日開催の日程は, 西陣学区のみならず, 市内他地域でもほとんどみかけられない。千本通りの西, 柏野学区に隣接する翔鸞学区内に於いて, わずかながら開催する町内がある。

さらに日程上のもう一つの特色は, 8月24日を中心とする地藏盆の日程が速夜と併せて二日間が多くなりつつあるのに対して, 8月15日中心の地藏盆は, 表Ⅶ-5-ロの通り, ほとんどすべての町内において, 14日, 15日, 16日の三日間にわたって開催されることである。地藏縁日に関係する地藏盆日程が, その前後の日曜日を中心として設けられるため, 毎年開催日が定まらないのに対して, 15日地藏盆は, いわゆる盆休みに合わせられるため, 開催日がいつも同じ

となる利点も生じている。

最後に, 柏野学区西新町町の地藏盆プログラム(表Ⅶ-12)と伏見・京町一丁目の地藏盆プログラム(表Ⅶ-13 伏見のまちづくりをかんがえる研究会, 子どもの生活空間研究グループ『前掲書』178ページ)を上に掲げる。両者の間にあまり違いがなく, したがって地域差もない。子ども達には, 取り扱いの簡単なスナック, ポン菓子, ハンバーガー等がおやつとして用意されている。現代は, メディアの中でも映像メディアが急速に主流となり, 子ども達は, ビデオテープでまんがを見て楽しむ時代となっている。このように地藏盆は, 常にその時代を反映し, 社会の動向から影響を受けている。

(加藤信孝)